

研究主題
一人ひとりの確かな学力の向上をめざして
「基礎・基本の習得と活用力の向上」

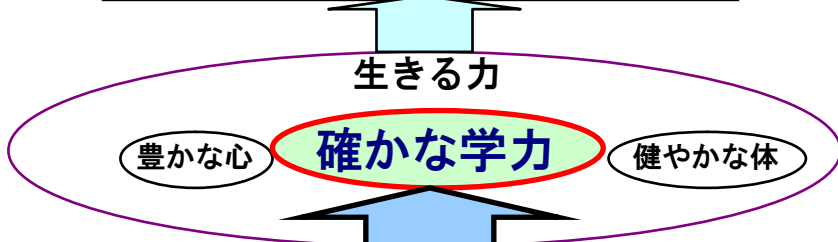
＜目指す生徒像＞

- ◎主体性のある生徒
- ◎実践力のある生徒
- ◎情操豊かな生徒

本校の教育目標
自主的で探求心をもった生徒の育成
明朗で思いやりのある生徒の育成
健康で実践力をもった生徒の育成

＜生徒の実態＞

- ◇行事等には意欲的
- ◇根気強さがない
- ◇表現力が弱い



検 証
基礎学力調査
学力診断テスト
定期テスト



分析
検討
修正

授業改善

- ① 基礎・基本定着の工夫
- ② 学習意欲を喚起する導入場面や教材の工夫
- ③ 学習課題の明確化
- ④ 活用力を養うための工夫

指導と評価の一体化
個に応じた指導

学習環境整備
学習習慣の確立 学習規律 教室環境

＜研究の仮説＞

本校生徒の実態から、基礎的・基本的な内容の定着を基盤とし、自ら学ぶ意欲、自分で考え判断する力、考えを的確に表現する力、問題を解決する能力を養い、確かな学力を身につけさせることが本校の課題である。その解決にむけて仮説を次のように設定した。

【仮説】授業において思考・判断・表現する場を設定し、継続した指導を積み重ねていけば、生徒の学習への理解は深まり、活用力は育成されるであろう。

1 本校活用力の実態

(1)本校の活用力の捉え

思考力：言語活動を通して思考する力
 判断力：必要な情報を取り出し、整理し、判断する力
 表現力：話す、書く、描く、奏でる、動くなど、表現する力

(2) 本校の活用力の実態

① 思考力について

課題に対して自分の考えや意見を持つとしない。じっくり考えようとしない生徒が多い。必要な情報を用いて筋道を立てて考えることが苦手である。

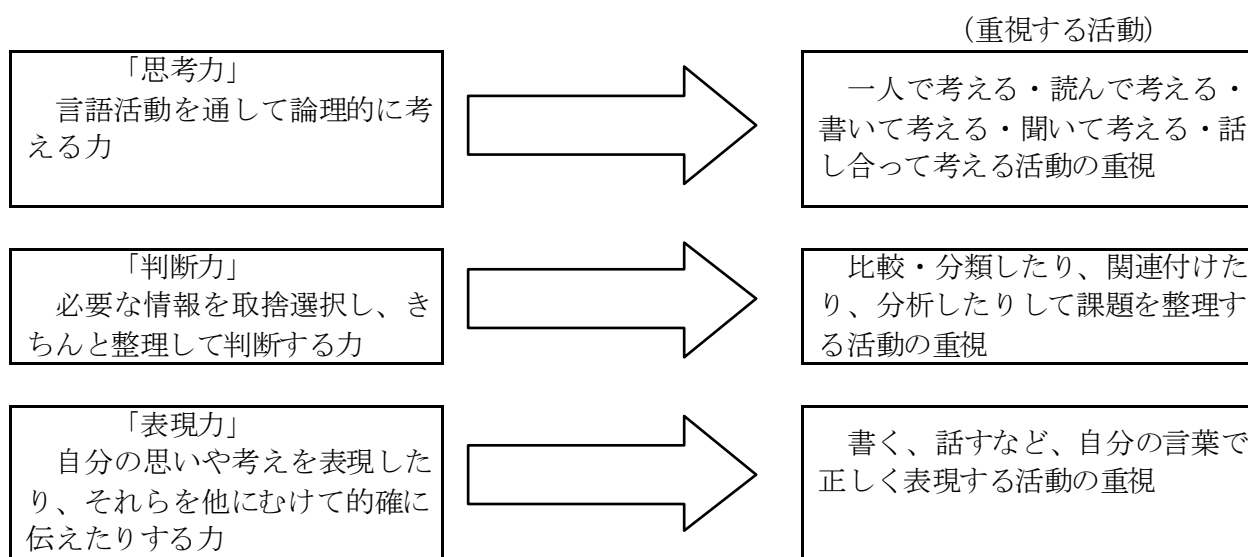
② 判断力について

課題を解決するためにどんな情報が必要かを取捨選択したり、適切に判断したりする力が弱い。

③ 表現力について

書くこと、話すことにおいては、自分の考えを表現する、わかりやすく相手に伝える力が弱い。作文等のまとめた内容を書く課題については、はじめから書こうとしない生徒もいる。読み手、聞き手を意識した適切な表現ができない。

(3) 本校生徒に身につけさせたい活用力と重視する活動



2 具体的な取り組み

(1) 授業改善

- ① 基礎・基本定着の工夫
- ② 学習意欲を喚起する導入場面や教材の工夫
- ③ 学習課題の明確化
- ④ 活用力を養うための工夫
 - ・ 各教科における活用力にかかわる指導目標の設定
 - ・ 思考する場面・判断する場面・表現する場面の設定

(2) 環境改善

- ① 基本的な学習習慣を身につけた生徒の育成…環境整備・学習規律
- ② 家庭学習状況の把握・改善のための手だて…学習状況の把握と改善

3 今後の課題

授業において活用する場面を設定することに意識的に取り組んでいるが、思考力・判断力・表現力を鍛えるために必要な既習の知識・技能の定着がまだ不十分である。生徒の学習習慣の確立とともにさらに確実な基礎・基本の定着に努めていきたい。また、授業において既習の知識や技能を活用する場面では、何をもとにして、どのような活動を仕組み、何を身につけさせるかをさらに明確にして、学習のねらいを達成させるために、より効果的な指導・支援および評価ができるように研究を進めていきたい。